

## B-2 指導法の工夫

・自分でできることでも、少し迷ったらすぐに身近な人に頼ろうとするところがあるため、できるだけ自分自身の力で活動できるような環境づくりに配慮してきた。これは、できた喜びや自信を実感してほしいと願ったからである。また、教材文の学習を自分の家族の紹介に生かすことができるように、挿絵を拡大し、家族の顔を一枚ずつ切り離し、一人ずつ貼りながら家族関係を言葉でとらえることにした。さらに、「お父さんは・・・つとめています。」などの文を学習の初めに貼って、課題を明確にするとともに、本時の学習がより興味深くなるために、この児童の家族全員の写真を準備することにした。

・助詞を少しでも意識させるために、一文を主語と述語に分け、短冊型のカードに書く。このカードの間に助詞を補う学習を繰り返すことで助詞の使い方を定着させたいと考えた。また、本時の学習では、これまで以上に「は」「に」の助詞を意識した学習展開に留意していきたい。

・児童の「話すこと」や「つぶやき」等を文字にして、「自己表現ができたという達成感、自信、喜びをもたせることができたか。」または、「助詞の使い方を考えて家族を紹介することができたか。」等、評価規準を位置付け児童の見取りを行いたいと考えている。



